使用説明書

PE-101A

フルレンジスピーカー

このたびは、パイオニアのフルレンジスピーカー PE-101Aをお買い求めいただきありがとうございます。
パイオニアは1937年、国内初のHi-Fiダイナミック型フルレンジスピーカー「A-8」を開発、発売しました。そして翌年パイオニアの前身である福音商会電機製作所を設立し、2008年会社創業70年を迎えました。スピーカーから創業した70周年記念として、パイオニア最後の市販フルレンジユニットで市場でも人気の高かった10 cmフルレンジスピーカー「PE-101」の音を復刻させ、PE-101Aとしました。
このPE-101Aは音楽鑑賞をはじめ、各種音響機器のモニター用として机の上や本棚に手軽に置いて楽しめる小型スピーカーシステム用のスピーカーです。

- 磁気回路のポール部に純銅のリングを装着して、磁性材料により発生する中高域のひずみを最小限に抑えています。さらにセンターキャップ内の空気圧によって生ずる低音部の音のにごりを、ポールの中心に通気孔を設けて改善し安定した音質と特性の向上をはかっています。
- 軽くて粘り強いウェットプレスコーン紙をパイオニア独特の発泡ウレタンゴムのエッジでサポートして豊かな中低音を再生しています。また、センターキャップには剛性の高いチタニウムを用いて高音まで伸びのある再生音を実現しています。
- リード線を180゜対向方向に引き出し、振動系の質量バランスを良くするなど細心の工夫がなされていますので、大きな入力でも十分に安定した再生音を得ることができます。

仕 様

ボイスコイルインピーダンス ……………… 8 Ω
最低共振周波数(fo) ……………………… 80 Hz
再生周波数帯域 ………………… fo ～ 20 000 Hz
最大入力 ‥‥30 W（ただし推奨キャビネット入りの場合）
出力音圧レベル ……………… 90.5 dB (2.83 V)
等価質量 …………………………………… 4 g
Qo ………………………………………… 0.5
有効振動半径 ………………………… 45.5 mm
空隙総磁束 ………………………… 48 500 Mx
空隙総磁束密度 ……………………… 10 000 G
外形寸法 …… 138（径）mm × 53.6（奥行）mm
取付寸法 ……………………………… 124 ømm
バッフル開口 ………………………… 111 ømm
質量 ………………………………………… 1 kg
付属品 …… 端子付き接続コードx 1、取付パッキンx 1
ネジx 4、スプリングワッシャー x 4
平ワッシャー x 4、使用説明書

部品名	部品番号
外装箱	ZK-0601
取付パッキン	G-4862X-A
ネジ袋セット	DP-SCREW-238
付属ケーブル	ZD-0465-A
使用説明書	ZE-268

- [ ]内はサービス用の部品番号です。
- 上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

特性図

出力音圧指向周波数特性

（入力 1W）

インピーダンス特性

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

PE-101A の取り扱い上の注意

- コーン紙やセンターキャップに手を触れないでください。汚れたり変形すると特性不良の原因になります。
- 強力な磁石を使っていますので取り扱う時は、必ず腕時計を外してください。また、組み立て中にナイフやクギ、ネジ、ドライバーなどが吸い付くと、スピーカーを傷めたり、特性不良の原因となりますのでご注意ください。

キャビネットについて

スピーカーの性能を十分に発揮するためには、優れたキャビネットが必要です。
次ページに、PE-101Aに最適な密閉型と位相反転型(バスレフ)のキャビネット寸法を示してあります。特性図を参考にしてお好みのキャビネットをお作りください。

スピーカー取り付け手順

キャビネットに次の手順で取り付けてください。

1 スピーカーユニットに接続コードを取り付ける

スピーカーユニットの端子には極性(+: プラスと−: マイナス)があり、茶色の端子がプラスです。

a リード線を半田付けする場合(図2)

リード線は確実に接続してください。不完全な接続で使用すると雑音が出たり、音が出なくなることがあります。

- リード線には30芯位のお好みの太い線で、キャビネットの端子(またはアンプのスピーカー端子)までの距離より少し長めのものをお使いください。また、リード線は2色(赤と白など)の平行線を使うと極性を合わせるのに便利です。

b 付属の端子付き接続コードを使う場合

端子は確実に差し込んでください。不完全な接続で使用すると雑音が出たり、音が出なくなることがあります。この端子は再び取り外すことができます。

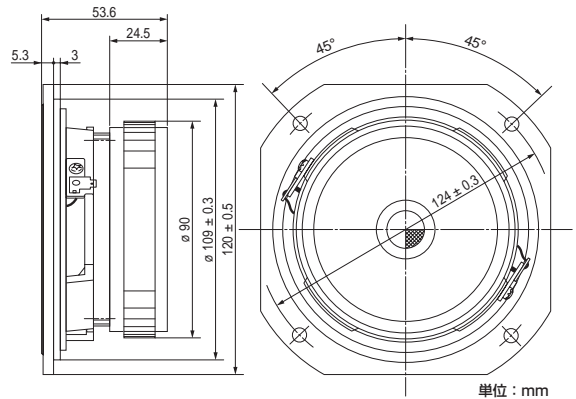
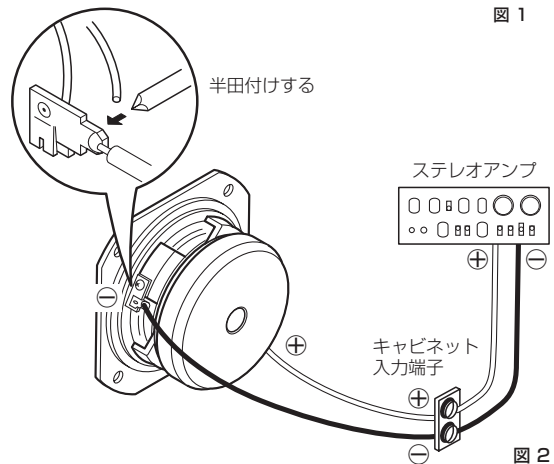
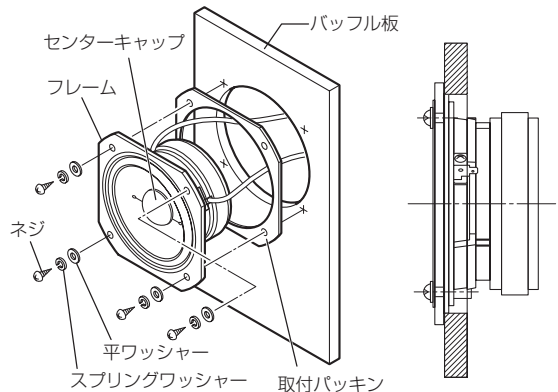
- 端子付き接続コードは白色のラインが付いた方を+極性としてお使いください。キャビネットの大きさに合わせて、端子が付いていない方を切断し、長さを調整してください。

2 キャビネットに取り付ける(図3)

リード線を付属の取付パッキンとキャビネットの中に通します。次に、リード線やパッキンをはさみ込まないように注意しながら、PE-101Aをバッフル板に取り付けます。フレームのネジ孔とパッキンのネジ孔を合わせて、付属のネジ、スプリングワッシャー、平ワッシャーを使って4カ所をしっかり固定してください。

3 リード線をキャビネットの端子(またはアンプのスピーカー端子)に接続する

PE-101Aのリード線のプラス側とキャビネットの端子(またはアンプのスピーカー端子)のプラス側をつなぎます。極性を間違えて接続すると、ステレオシステムに使ったとき位相が合わなくなって、低音が不足するとともにステレオ感を損ないます。

外形寸法図

密閉型キャビネット

スピーカーを動作させる場合、コーン紙の前面から出る音と後面から出る音の干渉をさける必要があります。それには平面バッフルにスピーカーを取り付ける方法があります。この場合、平面バッフルが非常に大きくなり、実用的ではありません。そこで考えられるのが、密閉型キャビネットです。これはスピーカーの後面から出る音を完全に遮断し、吸音材で後面からの音を吸収させる方法です。

位相反転型キャビネット

バスレフ型と呼ばれるこのキャビネットは、図のように密閉した箱に通気孔(ダクト)を設け、スピーカーの後面から出る音を、ダクトを利用して位相反転し、低音を補償して特性の改善を計ったものです。

キャビネットの作り方

小型スピーカーにふさわしいブックシェルフタイプの密閉型と位相反転型キャビネットの寸法図、および特性図を示してあります。下記を参考にして、優れたキャビネットをお作りください。

- よく乾燥したソリのない板厚12 mm以上の堅い板(ラワン合板や、ホモゲンホルツ材など)を用いてください。
- 板と板の接合面は、強力な木工用接着剤などで隙間のないように接着してください。
- キャビネット内部の定在波や共振を防止する吸音材には、グラスウールやフェルトを用いてください。密閉型には厚さ20 mm、位相反転型には15 mmくらいの吸音材を使ってください。
- キャビネットの裏板は、PE-101Aを取り付けたあとで閉じてください。

設置について

PE-101Aは小型のスピーカーシステム用に設計してありますので、特にブックシェルフ型を作る場合に最適です。机の上や本棚の上、壁に掛けるなど、お好みに合わせてお使いください。なお、本棚の中に設置すると、本がバッフル効果を持ち、低音感が増すのに役立ちます。

使用上の注意

- アンプに接続する時は、必ずアンプの電源を切ってください。
- PE-101Aの最大入力は30 Wです。過大入力を加えますと、スピーカーの破損や異常音の発生する原因となります。
- PE-101Aのインピーダンスは8 Ωです。数個組み合わせてスピーカーシステムを構成する時は、アンプの負荷インピーダンス(一般に4 Ω～ 16 Ω)に合わせて、ご使用ください。

位相反転型（単位：mm）

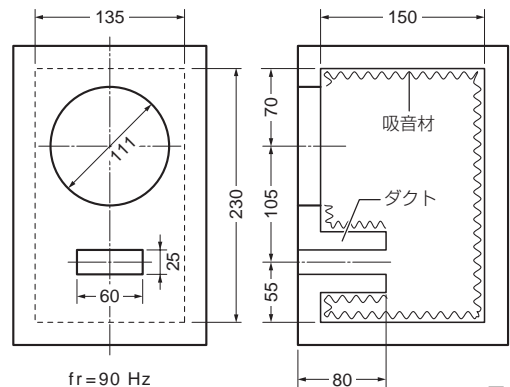



図４

周波数特性（図４のキャビネットに組み込んだ場合）

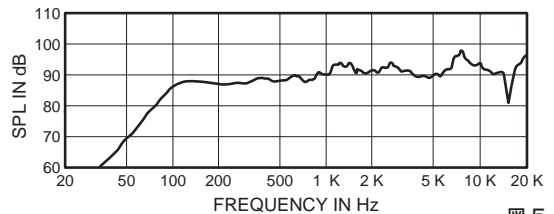



図５

位相反転型および密閉型（単位：mm）

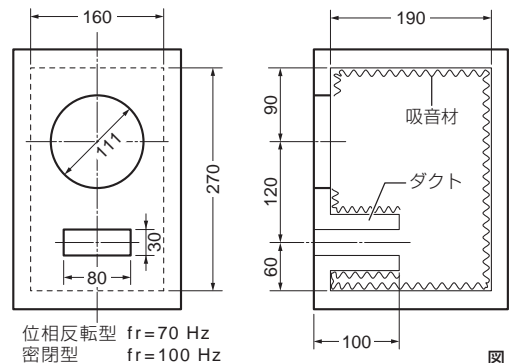



図６

図６のダクト部分を取ると密閉型になります。なお、キャビネットの内部容積を変えなければ形状、寸法を多少変えてもさしつかえありません。

周波数特性（図６のキャビネットに組み込んだ場合）

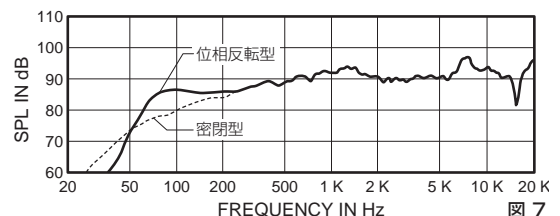



図７

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■ 0120−944−222　■一般電話　03−5496−2986

■ファックス　03−3490−5718

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（ゴーハ゜イオニア）　■一般電話　03−5496−2023

■ファックス　0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−879−1910

■ファックス　098−879−1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　■一般電話　0538−43−1161

■ファックス　0120−5−81096

平成20年2月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.027

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<ZE-268>